第２課　聖霊…舞台裏の働き

【暗唱聖句】

「その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである」ヨハネ16：14

【今週のテーマ】

聖霊は、わたしたちを舞台裏から支え、導いておられます。歴史を通じて重要な場面において常に大いなる働きをされていますが、父や子なるキリストに比べて控えめな方です。

【日曜日　聖霊の捉えどころのなさ】

「はっきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」…「はっきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。霊から生まれたものは霊である。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」ヨハネ3：3～8

「これらの骨に向かって、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る」エゼキエル37：5　　「主はわたしに言われた。「霊に預言せよ。人の子よ、預言して霊に言いなさい。主なる神はこう言われる。霊よ、四方から吹き来れ。霊よ、これらの殺されたものの上に吹きつけよ。そうすれば彼らは生き返る。」エゼキエル37：9

聖書は聖霊を風に例えることで、その捉えどころのなさを説明しています。風はいつ、どこから、どのようにふいて来て、またどこに吹き去っていくのかわたしたちはわかりません。しかし、確かに風が吹いたことはわかるし、その影響も受けます。心地よいときもあれば、激しく倒れそうになることもあります。人間はこの風を制御することはできません。聖霊もこれと同じです。まずわたしたちは聖霊の存在を認め、その働きは捉えようがなくとも、確かに大きな影響をわたしたちに及ぼしているということを知ることが大切です。

聖霊の働きの捉えどころのなさが、聖霊を、あるいはその働きを否定することになるものではありません。むしろ逆に、人間には捉えきれないがゆえに、人間を遥かに超越した存在である神様を意識させられるのです。

【月曜日　天地創造の際の聖霊】

「初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた」創世記1：1，2

天地創造において、聖霊もそこにおられました。まだ形なく、混沌とした世界の上を漂っています。この漂うという言葉（メラヘフェット）は、申命記32：11において、神が雛の上を飛んでいる鷲にたとえるさいにも用いられています。同様に、聖霊もこれから始まろうとしている創造の業を見守るかのように、まだ何もない水の聖霊は漂っています。

「神の霊がわたしを造り、全能者の息吹がわたしに命を与えたのだ。」ヨブ33：4

「御言葉によって天は造られ／主の口の息吹（霊）によって天の万象は造られた」詩篇33：6

また、これらの聖句は聖霊は創造の働きにおいても積極的な役割を負っていたことが示されています。ただ単に天地創造のときにそこにおられただけではなく、聖霊は重要な働きのためにそこに存在していたのです。

【火曜日　聖霊と聖所】

「わたしのための聖なる所を彼らに造らせなさい。わたしは彼らの中に住むであろう。」出エジプト25：8

神様の人類救済計画は、聖所とその中での様々な奉仕の中に示されていました。まず神様はイスラエルの中に住まれるために聖所を作るように言われました。神様は常に共にいてくださる方です。今はわたしたち一人ひとりを宮として神様は信じる者のただ中に住んでくださっていると約束されています。次に、聖所を実際に作るにあたって、聖所を作り手を聖霊を満たしたと書かれてあります。

「主はモーセにこう仰せになった。見よ、わたしはユダ族のフルの孫、ウリの子ベツァルエルを名指しで呼び、 彼に神の霊を満たし、どのような工芸にも知恵と英知と知識をもたせ、金、銀、青銅による細工に意匠をこらし、宝石をはめ込み、木に彫刻するなど、すべての工芸をさせる」出エジプト31：1～5

聖所は聖霊の働きなしには完成しませんでした。聖所の本体は天にあり、そのひな形として地上の聖所は作られましたが、適当にデザインされたのはなく、神様は非常に細かく指示して作らせていかれました。完璧な聖所は人間だけの力で作り上げることができるものではありませんでした。だから、聖霊に満たされる必要があったのです。これと同様に、わたしたち自身も聖なる宮として築き上げられるためには聖霊の力が必要であることがわかります。自分の努力でできるものではないからです。

【水曜日　イエス・キリストに栄光を与える聖霊】

「しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところに送る」ヨハネ16:7

イエス・キリストは地上を去ったあと弁護者（聖霊）を送ると言われました。それゆえにキリストが去っていくことはわたしたちにとって益なのだとまでいっておられます。これは新しい時代の幕開けの宣言であり、聖霊の時代が到来することを意味していました。旧約時代も聖霊は活発に働いていましたが、信じる者一人ひとりに聖霊が働くようになったのは新約時代に入ってからです。

聖霊は様々な働きをします。

「その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする」ヨハネ16:8

「その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。」ヨハネ16:13

「わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである」ヨハネ15:26

聖霊の最も大きな働きは真理を悟らせる働きです。真理とはすなわちキリストのことですから、聖霊によりわたしたちはキリストが主であることを知るようになるのです。聖霊は自分を主張するようなことはせず、絶えず私たちの目をキリストに向けさせます。

【木曜日　聖霊とキリスト】

聖霊は地上におけるキリストにも影響を与えたのでしょうか。答えは「イエス」です。

「天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」ルカ1:35

キリストは聖霊によって乙女マリアの中に宿りました。

「民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた」ルカ3:21、22

キリストは洗礼を受けたとき、聖霊が鳩のように下り、キリストを聖別し、使命を果たすための力が与えられました。

「まして、永遠の“霊”によって、御自身をきずのないものとして神に献げられたキリストの血は、わたしたちの良心を死んだ業から清めて、生ける神を礼拝するようにさせないでしょうか」へブル9:14

この聖句から、キリストが十字架にかかるときに聖霊が力づけていたことがわかります。このように人間イエスを聖霊が様々な場面で力づけ、励まし、支えておられたことがわかります。

また、聖霊はわたしたちに働き、以下のような方法でキリストの栄光があらわされるように働きます。

①聖書の中のイエスを理解できるように導くことによって

②イエス・キリストとの救いの関係に招き入れることによって

③信じる者の内にキリストのご品性が築かれることによって

④信じる者が、キリストのような生き方をできるようにさせることによって